

「FXクラウドシリーズ」

他社システム仕訳の読込マニュアル

第10版



2025年6月20日版

目 次

I. 機能概要	1
1. 「仕訳データ」の作成について	1
2. 「仕訳データ」の読込について	1
3. 読み込み後の「他社システム仕訳」の仕訳の訂正・削除	1
II. 操作説明	2
1. 仕訳ファイルの読込処理	2
2. 仕訳の問合せ	4
III. インポートする「仕訳データ」ファイル	5
1. ファイルの形式	5
2. ファイルの構成	5
3. ファイル名	6
4. 「仕訳データ」ファイル変換ツールのダウンロードと利用方法	7
5. ファイル作成時の注意点	8
6. 仕訳データのファイルレイアウト	9
IV. インポートする「仕訳データ」各項目の詳細	12
1. 「仕訳明細」	12
2. 「部門明細」	24
V. F X 2 等から移行した場合の注意点	26
1. エラー処理について	26
2. みなし処理について	26
VI. エラーメッセージ	28
VII. 警告メッセージ	30
VIII. 運用開始までの標準的なステップ	32
1. 仕訳の決定	32
2. 仕訳として集計する単位の決定	32
3. 読み込んだ仕訳を訂正・削除する場合の処理の検討	32
4. 「仕訳データ」の作成（プログラム開発等）	32
5. 「仕訳データ」の読み込みテスト	32
6. 運用におけるルールの決定、運用開始	32
IX. 「仕訳データ」読込 Q&A	33
1. ファイル形式	33
2. 「仕訳データ」の読み込み	33
3. 「仕訳データ」の各項目	34
4. テスト	35
5. 運用・操作	35
資料1：仕訳マトリックスによる「課税区分」別処理内容一覧表	36

※次のシステムは、当マニュアルでは「部門」を「事業」に読み替えてください。

F X 2 社会福祉法人会計クラウド

F X 2 公益法人会計クラウド

F X 2 学校法人会計クラウド

F X 2 N P O 法人会計クラウド

I. 機能概要

他社の販売管理システム等のデータを基に、F Xクラウドシリーズが定めるレイアウトでの「仕訳データ」を作成し、「仕訳データ読込」機能で読み込むことにより、仕訳入力の業務効率向上を図ります。

1. 「仕訳データ」の作成について

- (1) 他社システムのデータを基に作成する「仕訳データ」は、F Xクラウドシリーズが定めるレイアウトに従って作成されているものとします。「仕訳データ」のレイアウトの詳細については、「Ⅲ インポートする「仕訳データ」ファイル」「Ⅳ インポートする「仕訳データ」各項目の詳細」を参照してください。
- (2) 「仕訳データ」については、F Xクラウドシリーズへの読み込み時にその内容を補正できません。そのため、あらかじめF Xクラウドシリーズのマスター設定（勘定科目情報、消費税情報、部門別管理、資金管理等）に従って作成されている必要があります。
- (3) 読み込み可能な仕訳は単純仕訳のみです。複合仕訳については、諸口勘定を通過させて単純仕訳に分解してください。

2. 「仕訳データ」の読込について

- (1) 作成した「仕訳データ」のファイルは、F Xクラウドシリーズでの読み込み時、任意のフォルダに格納されているものとし、そのファイル名を指定することより読み込みを開始します。なお、ファイル名を指定するフォルダのウィンドウでは、「仕訳データ」のファイルのみをあらかじめ絞り込んで表示します。
- (2) F Xクラウドシリーズでの読み込み時のチェックにより、「仕訳データ」とF Xクラウドシリーズのマスターで不整合が発生した場合は、画面上にその旨のメッセージを表示し、「仕訳データ」の全明細の読み込みを中止します。この場合には、メッセージに従って「仕訳データ」の内容を見直す必要があります。
- (3) 他社システムのデータを基に作成した「仕訳データ」を読み込んだ後、これらの仕訳を「他社システム仕訳」として検索・絞込みが可能となっています。
- (4) F Xクラウドシリーズでは、読込んだ仕訳は「複合仕訳形式」で表示します。

3. 読み込み後の「他社システム仕訳」の仕訳の訂正・削除

- (1) 読み込み後の「他社システム仕訳」は、F Xクラウドシリーズと他社システム間の整合性を保つため、F Xクラウドシリーズで直接、訂正・削除すべきではありません。この場合には、他社システムで取引の訂正・削除を行った後、訂正・削除分の「仕訳データ」を作成し、F Xクラウドシリーズに読み込みます。
- (2) 上記(1)の「仕訳データ」は、訂正の場合は、訂正する仕訳の金額に -1 を乗じた仕訳を作成し、その上で追加仕訳を作成するか、もしくは訂正の差額分のみの仕訳を作成します。
削除の場合は、削除する仕訳の金額に -1 を乗じた仕訳を作成します。

II. 操作説明

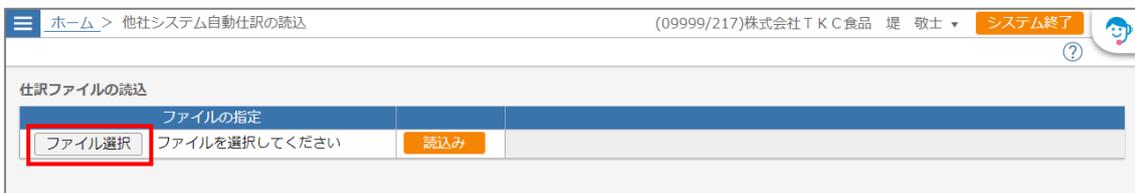
1. 仕訳ファイルの読込処理

(1) メニューの起動とファイル読込

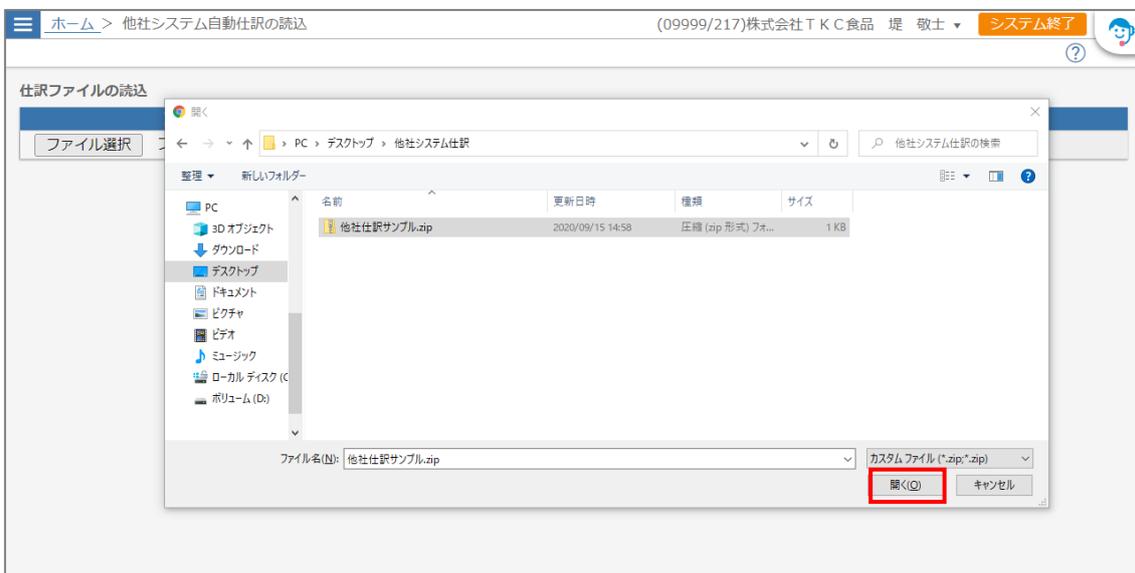
①ホーム>財務会計>仕訳データの読込>他社システム自動仕訳の読込をクリックします。



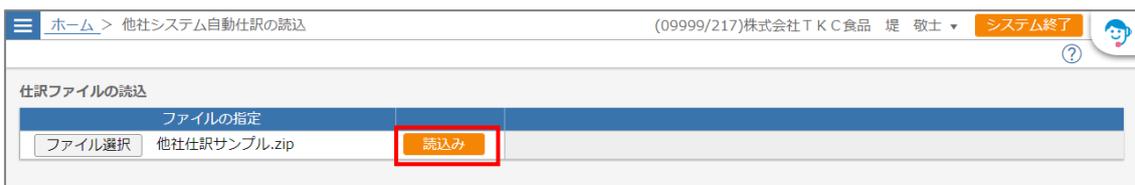
②「仕訳ファイル読込」の[ファイル選択]ボタンをクリックします。



③仕訳データのファイルを指定するウィンドウが表示されます。ファイル名を指定し、[開く]ボタンをクリックします。



④選択したファイル名を確認して[読込み]ボタンをクリックします。



(2) ファイルのチェック

読込んだファイルをチェックし、読込めない場合はエラーメッセージが表示されます。エラーがある場合は読み込めません。

不整合な仕訳があるため読込めません。エラーとなっている仕訳を確認してください

行番号	チェック結果
1	補助コードが入力されていないか、誤った補助コードが入力されています
2	部門コードが入力されていないか、誤った部門コードが入力されています
3	補助コードが入力されていないか、誤った補助コードが入力されています
3	部門コードが入力されていないか、誤った部門コードが入力されています
4	補助コードが入力されていないか、誤った補助コードが入力されています
5	補助コードが入力されていないか、誤った補助コードが入力されています
5	部門コードが入力されていないか、誤った部門コードが入力されています

(3) 仕訳の確認・一括読込

読込んだ仕訳は複合仕訳形式で表示されます。内容を確認し、[一括読込] ボタンをクリックします。

[一括読込]ボタンで仕訳を読込んでください

月日	伝票番号 証憑番号	借方				貸方				取引先名 元帳摘要
		勘定科目名 口座名	部門	税区 税率	取引金額 (内、消費税等)	勘定科目名 口座名	部門	税区 税率	取引金額 (内、消費税等)	
11/11		普通預金 明治銀行 上野		0	10,800	売掛金		0	10,800	(株) 鹿沼塗装 預金入金 売掛金回収
11/13		売掛金		0	33,000	製品売上高	消費者用製	1:1 10%A	33,000 (0)	北陸食品(株) 売掛金計上 本日売上高
11/14		リース料	消費者用製	5 10%A	22,000 (0)	普通預金 中央銀行 千葉		0	22,000	神戸リース 預金支払 リース料
11/14		現金 明治銀行 上野		0	10,000	普通預金 明治銀行 上野		0	10,000	現金引出
11/16		会議費	消費者用製	5 8%A	1,080 (0)	現金 明治銀行 上野		0	1,080	ヤオスーパー 会議用飲料

2. 仕訳の問合せ

- (1) 「仕訳帳」メニュー等の問合せ画面上部にある「過去仕訳検索」ボタンをクリックすると、当画面が表示されます。「仕訳の種類」で「他社システム仕訳」を選択し、「検索」ボタンをクリックします。

- (2) 「他社システム仕訳」が一覧画面に表示されます。詳細を確認したい仕訳をダブルクリックすると、複合仕訳形式の画面が表示されます。画面下に自動仕訳番号[EX999999] (999999は自動仕訳番号として「仕訳データ」にセットされた値です。)と仕訳の種類名「他社システム仕訳」が表示されます。

ホーム > 仕訳帳 > 複合仕訳 (09999/217)株式会社TKC食品 堤 敬士 システム終了

前仕訳 次仕訳 訂正 削除

年月日 2019/11/11 伝票番号 証憑番号 月次更新未了

行	借方				貸方				実際の仕入れ年月日		
	勘定科目 勘定科目名 口座名	部門	税 業 税率	取引金額 (内、消費税等) 税抜き金額	勘定科目 勘定科目名 口座名	部門	税 業 税率	取引金額 (内、消費税等) 税抜き金額	取引先名(仕入先の氏名又は名称) 元帳摘要(仕入れ資産等の総称)	～	
1	1113A1 普通預金 明治銀行 上野		0	10,800	1122 売掛金		0	10,800	000008 (株) 鹿沼塗装 預金入金 売掛金回収	～	
2										～	
3										～	
4										～	
	借方合計				貸方合計				差額	0	
					収支区分				01 経常収入	02 売掛金入金	

R-No. 62170167/200915 自動仕訳番号 EX001215 他社システム仕訳 入力者 堤 敬士

Ⅲ. インポートする「仕訳データ」ファイル

1. ファイルの形式

テキストファイルとします。テキストファイルの項目はタブによる区切りとします。仕訳データの明細ごとの区切りには改行文字を使用します。

2. ファイルの構成

「仕訳データ」は、取引の主たる情報を格納する「仕訳明細」の集合体である仕訳ファイルと「仕訳明細」の各取引に対応した部門ごとの金額を格納する「部門明細」の集合体である部門ファイルから構成されます。

仕訳明細と部門明細の関係は以下のとおりです。

【例1】 売掛金 11,000 を当座預金で回収した。

(借方) 当座預金(1112) (貸方) 売掛金(1122) 11,000

損益取引ではないので、仕訳ファイル(slp)のみが必要です。

①仕訳ファイル(slp)の内容

レポート番号	借方科目	貸方科目	取引金額	内、消費税等	部門数	部門コード
1	当座預金(1112)	売掛金(1122)	11,000		0	

【例2】 部門(001)で22,000、部門(003)で11,000 掛けにて販売した。

(借方) 売掛金(1122) (貸方) 売上高(4111) 33,000

(内、消費税等) (3,000)

[内訳] 部門(001) 22,000 (内、消費税等) 2,000

[内訳] 部門(003) 11,000 (内、消費税等) 1,000

損益取引で、部門明細が2つあるので、仕訳ファイル(slp)の他に部門ファイル(c1s)が必要となります。

①仕訳ファイル(slp)の内容

レポート番号	借方科目	貸方科目	取引金額	内、消費税等	部門数	部門
2	売掛金(1122)	売上高(4111)	33,000	3,000	2	

②部門ファイル(c1s)の内容

レポート番号	部門	部門金額(税込)	部門金額(税抜)
2	001	22,000	20,000
2	003	11,000	10,000

【例3】 地代家賃 22,000 を、当座預金より支払った。

(借方) 地代家賃(6215) (貸方) 当座預金(1112) 22,000

(内、消費税等) (2,000)

[内訳] 部門(002) 22,000 (内、消費税等) 2,000

損益取引で、部門明細が1つなので、仕訳ファイル(slp)のみが必要になります。部門明細が1つなので、部門ファイル(c1s)は不要です。

①仕訳ファイル(slp)の内容

レコード番号	借方科目	貸方科目	取引金額	内、消費税等	部門数	部門
3	地代家賃(6215)	当座預金(1112)	22,000	2,000	1	002

以上をまとめると、次のようになります。

①仕訳ファイル(slp)の内容

レコード番号	借方科目	貸方科目	取引金額	内、消費税等	部門数	部門
1	当座預金(1112)	売掛金 (1122)	11,000		0	
2	売掛金 (1122)	売上高 (4111)	33,000	3,000	2	
3	地代家賃(6215)	当座預金(1112)	22,000	2,000	1	002

②部門ファイル(cls)の内容

レコード番号	部門	部門金額(税込)	部門金額(税抜)
2	001	22,000	10,000
2	003	11,000	20,000

【ワンポイント】

一度に読み込む「仕訳データ」の中に【例2】の取引が一つでもある場合には、仕訳ファイルに部門ファイルが必要となります。ただし、【例2】の取引がある場合でも【例3】の形式に分解すれば部門ファイルは不要となります。

3. ファイル名

仕訳ファイルの拡張子を「slp」、部門ファイルの拡張子を「cls」として特定の同一フォルダに格納します。ファイル名は拡張子が仕訳ファイルは「slp」、部門ファイルは「cls」であれば、任意に設定可能です。

ただし、仕訳ファイルのファイル名と対応する部門ファイルのファイル名は拡張子以外につき、同一にしてください。

作成した「slp」と「cls」のファイルをzip形式のファイルにしてください。

zip ファイルの作成はエクスプローラ上で行うか、「仕訳データ」ファイル変換ツールで作成してください。次頁で「仕訳データ」ファイル変換ツールのダウンロードと利用方法を説明します。

4. 「仕訳データ」ファイル変換ツールのダウンロードと利用方法

(1) ハンバーガーメニューで「ダウンロード」をクリックします。



(2) 「ダウンロード」画面が表示されます。「仕訳データ」ファイル変換ツールの「ダウンロード」ボタンをクリックすると「SlpConverter.zip」がダウンロードされます。ダウンロード完了後、「SlpConverter.zip」をクリックします。



(3) zipに格納されている「SlpConverter.exe」をダブルクリックすると以下の画面が表示されます。「ファイル選択」ボタンで作成した「仕訳データ」ファイルを選択します。



(4) 「参照」ボタンで出力先を指定し、「変換実行」ボタンをクリックすると zip ファイルが作成されます。



5. ファイル作成時の注意点

税抜き経理で課税取引の仕訳ファイルを作成する場合、以下の点にご注意ください。

- (1) F Xクラウドシリーズでは仕訳帳を複合仕訳形式で表示します。上記2の【例2】の場合、仕訳帳では以下のとおり表示します。

①仕訳ファイル(slp)の内容

借方科目	貸方科目	取引金額	内、消費税等	部門数	部門
売掛金(1122)	売上高(4111)	33,000	3,000	2	

②部門ファイル(c1s)の内容

部門	部門金額(税込)	部門金額(税抜)
001	22,000	20,000
003	11,000	10,000

③①②のファイルを読込んだ仕訳帳

借方科目	部門	取引金額	貸方科目	部門	取引金額
売掛金(1122)		33,000	売上高(4111)	001	22,000 (2,000)
			売上高(4111)	002	11,000 (1,000)

- (2) 部門明細の税込み金額を入力しない場合、内、消費税等の金額は仮払消費税(1164)または仮受消費税(2164)として表示されます。

①仕訳ファイル(slp)の内容

借方科目	貸方科目	取引金額	内、消費税等	部門数	部門
売掛金(1122)	売上高(4111)	33,000	3,000	2	

②部門ファイル(c1s)の内容

部門	部門金額(税込)	部門金額(税抜)
001	0	20,000
003	0	10,000

③①②のファイルを読込んだ仕訳帳

借方科目	部門	取引金額	貸方科目	部門	取引金額
売掛金(1122)		33,000	売上高(4111)	001	22,000 (0)
			売上高(4111)	002	11,000 (0)
			仮受消費税(2164)		3,000

- (3) 上記(2)を回避する場合は以下のいずれかを検討してください。

- ①部門明細に税込金額を入力する。(【例2】の形式でファイルを作成する。)
- ②1部門1仕訳の形式に分解する。(【例3】の形式でファイルを作成する。)

6. 仕訳データのファイルレイアウト

「必須」項目は必ず値をセットしてください。

「SLP 省略値」とは、省略時に SLP にセットする値です。

「省略時更新値」とは、省略した場合にデータとして扱われる値です。

(※)「未入力」とは、タブによる区切りのみで、値のない状態、
あるいは空文字(「 ” 」)を指します。

(1)「仕訳明細」

No	列	項目	型	有効値・桁数	必須	SLP 省略値	省略時更新値	備考
1	A	関与先コード	数値	0~999	必須	-	-	MX 2 クラウド 経理区分が 1 つ：関与先コード 経理区分が複数：経理区分コード FX 2 社会福祉法人会計クラウド 拠点区分コード FX 2 学校法人会計クラウド 会計単位コード
2	B	データ作成システム区分	数値	999	必須	-	-	固定で 999 をセット
3	C	レコード番号	数値	1~999999999	必須	-	-	1 ファイル内で重複しない番号をセット
4	D	取引年月日	数値	西暦年月日(8 桁)	必須	-	-	西暦でセット
5	E	伝票番号	数値	0~99999		0 or 未入力	空文字	システムで自動付番(変更不可) またはユーザごとに自動付番(変更不可)の場合は無視
6	F	証憑番号	文字	6 バイト以内		未入力	空文字	システム情報で数値入力としている場合で文字列が入力されている場合、または 6 バイトを超えている場合はエラー
7	G	課税区分	文字	2 バイト以内		未入力	空文字	申告書を自動作成する場合は必須
8	H	事業区分	数値	0~6		0	空文字	消費税情報で「事業区分を入力する」(簡易課税)場合でかつ当該仕訳の課税区分が 1、11 の場合は必須
9	I	借方科目コード	数値	1111~9992	必須	-	-	
10	J	借方補助コード	文字	2 バイト以内		未入力	空文字	借方科目を口座別管理している場合は必須
11	K	貸方科目コード	数値	1111~9992	必須	必須	必須	
12	L	貸方補助コード	文字	2 バイト以内		未入力	空文字	貸方科目を口座別管理している場合は必須
13	M	F I L L E R	-	-		0 or 未入力	-	FX 2 等では、小切手番号の領域でした。FX クラウドシリーズでは、小切手番号の入力を廃止したため、予備領域となります。0 または空文字とします。
14	N	F I L L E R	-	-		0 or 未入力	-	予備領域です。0 または空文字とします。
15	O	取引金額	数値	-999999999999 ~999999999999	必須	-	-	カンマ編集は行わないでください。
16	P	内、消費税等	数値	-999999999999 ~999999999999		0 or 未入力	0	消費税が発生する場合は必須 カンマ編集は行わないでください。
17	Q	税額入力区分	数値	0or1		0 or 未入力	0	「0」：消費税率の横に A が付きません。 「1」：消費税率の横に A が付きます。
18	R	消費税率	数値	0~99999		0 or 未入力	0	申告書を自動作成するかつ課税取引の場合は必須

19	S	取引先コード	数値	0~999999		0 or 未入力	空文字	取引先別管理の科目を貸借どちらか一方にセットした場合は必須
20	T	取引先名	文字	32バイト以内 (全半角混在可)		未入力	空文字	取引先コードが0(随時入力)の場合に反映 それ以外は入っていても無視 32バイトを超えている場合はエラー
21	U	実際の仕入れ日 入力パターン	数値	0~4.9		0 or 未入力	9(未入力)	※19 ページの説明を参照
22	V	実際の仕入れ 開始年月日	数値	西暦年月日(8桁) or 0		0 or 未入力	空文字	
23	W	実際の仕入れ 終了年月日	数値	西暦年月日(8桁) or 0		0 or 未入力	空文字	
24	X	元帳摘要	文字	80バイト以内 (全半角混在可)		未入力	空文字	80バイトを超えている場合はエラー
25	Y	F I L L E R	-	-		0 or 未入力	-	予備領域です。0または空文字とします。
26	Z	収支区分	数値	0~7		0 or 未入力	空文字 (あるいは資金 相手科目の 設定値)	(1) 社福、公益、学校、NPO 予備領域です。 (2) 上記以外 以下の条件に合致する場合は必須 ・「利用機能範囲」で資金管理を利用している ・貸借に資金定義科目がある ・「資金相手科目」で収支区分を設定していない
27	AA	内訳区分	数値	0~99		0 or 未入力	空文字 (あるいは資金 相手科目の 設定値))	(1) 社福、公益、学校、NPO 予備領域です。 (2) 上記以外 以下の条件に合致する場合は必須 ・「利用機能範囲」で資金管理を利用している ・貸借に資金定義科目がある ・「資金相手科目」で収支区分を設定していない
28	AB	部門コード	数値	0~998		未入力	空文字	経常損益までの損益科目が発生している場合で部門明細数が1の場合は必須。部門明細数が1以外の時は無視
29	AC	部門数	数値	0~60		0 or 未入力	0	経常損益までの損益科目が発生している場合は必須 最大60
30	AD	部門金額入力区分	数値	0or1		0 or 未入力	0	1の場合、部門明細の部門税込み金額が有効。1以外の場合、ファイル上、部門税込み金額がセットされていても無視。
31	AE	F I L L E R	-	-		0 or 未入力	-	予備領域です。
32	AF	自動仕訳番号	数値	0~999999		0 or 未入力	空文字	
33	AG	支払予定日	数値	西暦年月日(8桁) or 0		0 or 未入力	-	
34	AH	回収予定日	数値	西暦年月日(8桁) or 0		0 or 未入力	-	
35	AI	F I L L E R	-	-		0 or 未入力	-	予備領域です。0または空文字とします。
36	AJ	F I L L E R	-	-		0 or 未入力	-	予備領域です。0または空文字とします。
37	AK	F I L L E R	-	-		0 or 未入力	-	予備領域です。0または空文字とします。
38	AL	F I L L E R	-	-		0 or 未入力	-	予備領域です。0または空文字とします。

39	AM	F I L L E R	-	-		0 or 未入力	-	予備領域です。0または空文字とします。
40	AN	F I L L E R	-	-		0 or 未入力	-	予備領域です。0または空文字とします。
41	AO	F I L L E R	-	-		0 or 未入力	-	予備領域です。0または空文字とします。
42	AP	F I L L E R	-	-		0 or 未入力	-	予備領域です。0または空文字とします。
43	AQ	F I L L E R	-	-		0 or 未入力	-	予備領域です。0または空文字とします。
44	AR	F I L L E R	-	-		0 or 未入力	-	予備領域です。0または空文字とします。
45	AS	F I L L E R	-	-		0 or 未入力	-	予備領域です。0または空文字とします。
46	AT	軽減対象取引区分	数値	0or1		0 or 未入力	0	軽減税率の場合は「1」、軽減税率以外の場合は「0」をセットします。省略された場合は、軽減税率以外とみなして読みます。
47	AU	適格請求書発行事業者の登録番号	文字	T+数字 13桁		未入力	空文字	当項目が空欄でかつ取引先コードがセットされている場合、FXクラウドの取引先に登録されている事業者登録番号が自動でセットされます。

(2) 「部門明細」

No	列	項目	型	有効値・桁数	SLP省略値	省略更新値	備考
1	A	関与先コード	数値	0~999	必須	-	MX 2クラウド 経理区分が1つ：関与先コード 経理区分が複数：経理区分コード FX 2 社会福祉法人会計クラウド 拠点区分コード FX 2 学校法人会計クラウド 会計単位コード
2	B	データ作成システム区分	数値	999	必須	-	固定で 999 をセット
3	C	レコード番号	数値	1~999999999	必須	-	仕訳のレコード番号
4	D	部門明細部レコード番号	-	-	0 or 未入力	-	FXクラウドシリーズでは当項目は参照していません。
5	E	部門コード	数値	0~998	必須	-	
6	F	部門税込み金額	数値	-9999999999 ~9999999999	0	0	「部門金額入力区分」が1の場合のみ有効となる。この際、税込み金額-内訳金額の値を部門ごとの内、消費税等として読み込みます。課税区分[52]等の場合は必須 <u>カンマ編集は行わないでください。</u>
7	G	内訳金額	数値	-9999999999 ~9999999999	0	0	各部門の内訳金額をセット。消費税が発生する取引の場合は税抜きの金額をセット。 <u>カンマ編集は行わないでください。</u>

(注1) 「列」とは Excel で開いた時の列です。

IV. インポートする「仕訳データ」各項目の詳細

(※)「未入力」とは、タブによる区切りのみで、値のない状態、あるいは空文字(「 ” ”)を指します。

1. 「仕訳明細」

(1) 関与先コード

型 : 数値

有効値 : 0~999

F Xクラウドシリーズに登録されている関与先コードをセットしてください。

MX 2クラウドの場合は、経理区分が1つの場合は関与先コード、複数ある場合は経理区分コードをセットしてください。

F X 2 社会福祉法人会計クラウドの場合は、拠点区分コードをセットしてください。

F X 2 公益法人会計クラウドの場合は、会計区分コードをセットしてください。

F X 2 学校法人会計クラウドの場合は、会計単位コードをセットしてください。

F X 2 N P O 法人会計クラウドの場合は、会計区分コードをセットしてください。

例：関与先コードが「005」の場合「5」

関与先コードが「032」の場合「32」

(2) データ作成システム区分

型 : 数値

有効値 : 999

固定で999をセットしてください。

(3) レコード番号

型 : 数値

有効値 : 1~999999999

1 ファイル内で重複しない番号をセットしてください。番号は連続している必要はありません。降順、昇順、または順不同であっても問題ありません。

(4) 取引年月日

型 : 数値

仕訳の取引年月日を西暦でセットしてください。

(5) 伝票番号

型 : 数値

有効値 : 0~99999

仕訳の伝票番号をセットしてください。

ただし、F Xクラウドシリーズの伝票番号の付番が「システムで自動付番する(変更不可)」または「ユーザごとに自動付番(変更不可)」となっている場合は0から99999までの、どの数値がセットされていてもF Xクラウドシリーズで更新する際に付番し直します。そのため、通常は0をセットしてください。

なお、伝票番号の付番の設定は「システム情報」メニューで行います。

(6) 証憑番号

型 : 半角文字

桁数 : 6バイト以内

仕訳の証憑番号をセットしてください。省略する場合は未入力としてください。

(7) 課税区分

型 : 半角文字

桁数 : 2 バイト以内

TKC財務会計システムで定める課税区分をセットします。課税区分は、その取引が消費税法上どのような取引であるかを明らかにする区分であり、以下の「消費税の課税区分一覧」の中のいずれかの区分をセットする必要があります。

消費税情報で「申告書を自動作成しない」としている場合は、未入力としてください。

例：課税区分[1]をセットする場合は「1」。

課税区分[11]をセットする場合は「11」。

	課税区分	内 容
売 上 げ	1	課税売上げ
	11	課税売上げに係る対価の返還
	12	課税売上げに係る貸倒れ
	2	輸出売上げ（課税品の輸出等）
	21	同輸出に係る対価の返還
	25	輸出売上げ（非課税品等の輸出等）
	26	同輸出に係る対価の返還
	3	非課税売上げ
	31	非課税売上げに係る対価の返還
	4	有価証券等の譲渡
仕 入 れ	5	課税売上げにのみ要する課税仕入れ
	51	同課税仕入れに係る対価の返還
	52	免税事業者等からの課税仕入れ（課税売上げ）
	53	同課税仕入れ（免税事業者等）に係る対価の返還
	55	輸出課税仕入れ（課税売上げにのみ要するもの）
	6	非課税売上げにのみ要する課税仕入れ
	61	同課税仕入れに係る対価の返還
	62	免税事業者等からの課税仕入れ（非課税売上げ）
	63	同課税仕入れ（免税事業者等）に係る対価の返還
	65	輸出課税仕入れ（非課税売上げにのみ要するもの）
	7	課税・非課税売上げに共通する課税仕入れ
	71	同課税仕入れに係る対価の返還
	72	免税事業者等からの課税仕入れ（売上げ共通）
	73	同課税仕入れ（免税事業者等）に係る対価の返還
	75	輸出課税仕入れ（課税・非課税売上げに共通するもの）
8	非課税仕入れ・同対価の返還	
	9	課税区分が未確定の取引等
	0	不課税取引（税外取引）
特定 収入	95	課税売上げにのみ要する課税仕入れに係る特定収入
	96	非課税売上げにのみ要する課税仕入れに係る特定収入
	97	課税・非課税売上げに共通する課税仕入れに係る特定収入
	98	用途が特定されていない特定収入
特定 仕 入 れ	57	特定課税仕入れ（課税売上げにのみ要するもの）
	58	同特定課税仕入れに係る対価の返還
	67	特定課税仕入れ（非課税売上げにのみ要するもの）
	68	同特定課税仕入れに係る対価の返還
	77	特定課税仕入れ（課税・非課税売上げに共通するもの）
	78	同特定課税仕入れに係る対価の返還

参考：課税区分について

FXクラウドシリーズでは、より正確な消費税データの作成を目的として、ある「課税区分」のもとで入力できる仕訳を想定し、「課税区分」、「借方科目コード」、「貸方科目コード」の整合性を「仕訳マトリックス」でチェックしています。

課税区分と貸借科目が整合性を欠いている場合は、読み込み不可能となります。

①「仕訳マトリックス」

TKC財務会計システムでは科目ごとに消費税属性を定めています。その消費税属性に従い消費税データ処理のために、借方・貸方のマトリックス表でチェックを行います。そしてそれぞれの仕訳マトリックスで入力可能な「課税区分」を定義しています。詳細は巻末の「仕訳マトリックスによる「課税区分」別処理内容一覧表」を参照してください。

【科目の消費税属性】

- 「属性A」・・・「課税取引」の発生する勘定科目
- 「属性B」・・・「課税取引」の発生しない勘定科目
- 「属性C」・・・「仮払消費税（1164）」
- 「属性D」・・・「仮受消費税（2164）」

【消費税・仕訳マトリックス】

		貸 方			
		A	B	C	D
借 方	A		○		
	B	○	○	○	○
	C		○		
	D		○		

*仕訳の組み合わせで の欄は「課税区分」に [9] と [0] だけが入力できます。

②複合仕訳の「課税区分」の付け方

1取引の仕訳が複合仕訳となる場合は、複合仕訳を分解した単一仕訳ごとに「課税区分」を付すことが必要となります。そのため、複合仕訳を分解したそれぞれの単一仕訳について「課税区分」が異なる場合には、「課税区分」の記入にご注意ください。

[例 1]

自社で使用していた固定資産の売却

(簿価¥1,000,000・減価償却累計額¥500,000・当期減価償却費¥100,000・売却価額¥630,000)

課税区分 [0]	減価償却累計額(1225)	／	備 品(1216)	500,000
課税区分 [0]	減 価 償 却 費(6214)	／	備 品(1216)	100,000
課税区分 [1]	現 金(1111)	／	備 品(1216)	630,000
	(／	仮受消費税等 (2164)	30,000)
課税区分 [0]	備 品(1216)	／	固定資産売却益(8111)	200,000

または

課税区分 [0]	減価償却累計額(1225)	／	備 品(1216)	500,000
課税区分 [0]	減 価 償 却 費(6214)	／	備 品(1216)	100,000
課税区分 [1]	現 金(1111)	／	備 品(1216)	420,000
	(／	仮受消費税等 (2164)	20,000)
課税区分 [1]	現 金(1111)	／	固定資産売却益(8111)	210,000
	(／	仮受消費税等 (2164)	10,000)

[例 2]

課税事業用の普通乗用車の購入

(乗用車購入代¥4,399,000・保険料¥60,450・自動車諸税¥310,100)

課税区分 [5]	車 両 運 搬 具(1215)	／	当 座 預 金(1112)	4,339,000
	(仮払消費税等 (1164)	／		394,455)
課税区分 [8]	保 険 料(6224)	／	当 座 預 金(1112)	60,450
課税区分 [0]	租 税 公 課(6221)	／	当 座 預 金(1112)	310,100

[例 3]

課税事業用の土地の購入

(簿価¥5,000,000・仲介手数料¥157,500)

課税区分 [8]	土 地(1221)	／	当 座 預 金(1112)	5,000,000
課税区分 [5]	土 地(1221)	／	当 座 預 金(1112)	157,500
	(仮払消費税等 (1164)	／		14,318)

③入力可能な「課税区分」

・課税区分 [1] [11] [12]

(借) B / (貸) A 自動税抜きし、仮受消費税等(2164)を貸方に計上する。

(借) B / (貸) 2164 自動税抜き処理は行わない。

(借) A / (貸) B 自動税抜きし、仮受消費税等(2164)を借方に計上する。

(借) 2164 / (貸) B 自動税抜き処理は行わない。

・課税区分 [5], [52] [6], [62], [7], [72], [51], [53], [55], [61], [63], [65], [71], [73], [75]

(借) A / (貸) B 自動税抜きし、仮払消費税等(1164)を借方に計上する。

(借) 1164 / (貸) B 自動税抜き処理は行わない。

(借) B / (貸) A 自動税抜きし、仮払消費税等(1164)を貸方に計上する。

(借) B / (貸) 1164 自動税抜き処理は行わない。

・課税区分 [2], [21], [25], [26], [3], [31], [57], [58], [67], [68], [77], [78]

(借) A / (貸) B 自動税抜き処理は行わない。

(借) B / (貸) A

・課税区分 [4]

(借) A / (貸) B

(借) B / (貸) A 自動税抜き処理は行わない。

(借) B / (貸) B

・課税区分 [8]

(借) A / (貸) B

(借) B / (貸) A 自動税抜き処理は行わない。

(借) B / (貸) B

・課税区分 [9], [0]

すべての仕訳の組み合わせにおいて入力可能です。

(8) 事業区分

型 : 数値

有効値 : 0~6

事業区分をセットしてください。

課税区分が 1, 11 以外、または消費税情報で事業区分を入力しない設定にしている場合は、0 をセットしてください。

(9) 借方科目コード

型 : 数値

有効値 : 1111~9992

借方の科目コードをセットしてください。

(10) 借方補助コード

型 : 半角文字

桁数 : 2 バイト以内

借方科目を口座別管理している場合、借方科目の補助コードをセットしてください。

上記以外の科目の場合は未入力、または半角 SPACE 2 桁をセットしてください。

例：補助コード「A」をセットする場合は「A」
補助コード「A1」をセットする場合は「A1」

(11) 貸方科目コード

型 : 数値

有効値 : 1111~9992

貸方の科目コードをセットしてください。

(12) 貸方補助コード

型 : 半角文字

桁数 : 2バイト以内

貸方科目を口座別管理している場合、貸方科目の補助コードをセットしてください。

上記以外の科目の場合は未入力、または半角 SPACE 2桁をセットしてください。

例：補助コード「A」をセットする場合は「A」

補助コード「A1」をセットする場合は「A1」

(13) FILLER

型 : 半角文字

有効値 : 0 or 未入力

予備領域です。0 または未入力としてください。

(14) FILLER

型 : 半角英数字

有効値 : 0 or 未入力

予備領域です。0 または未入力としてください。

(15) 取引金額

型 : 数値

有効値 : -99999999999~99999999999

取引金額をセットしてください。

(16) 内、消費税等

型 : 数値

有効値 : -99999999999~99999999999

内、消費税等をセットしてください。

課税区分が「1、11、12、5、51、52、53、55、6、61、62、63、65、7、71、72、73、75」に該当する取引の場合は、税込みの取引金額に含まれる内、消費税等をセットしてください。

(課税区分「52、53、62、63、72、73」で条件に当てはまる場合を除き、データ連携の際にFXクラウドシリーズ側で内、消費税等の自動計算はいたしません。)

①「1、11」の場合、内、消費税等は次の計算式で求め「(17) 税額入力区分」は自動計算を示す「1」とします。

内、消費税等 = 税込み取引金額 × 消費税率(%) ÷ (100 + 消費税率(%))

※消費税情報の「売上に係る端数処理」の設定に合わせて端数処理を行ってください。小数点以下の数値はセットしないでください。

②「12、5、51、6、61、7、71」の場合、内、消費税等は次の計算式で求め「(17) 税額入力区分」は自動計算を示す「1」とします。

内、消費税等＝税込み取引金額×消費税率(%)÷(100+消費税率(%))

※ 計算は小数点第一位を四捨五入します。小数点以下の数値はセットしないでください。

③「52, 53, 62, 63, 72, 73」の場合、内、消費税等は次の計算式で求め「(17) 税額入力区分」は自動計算を示す「1」とします。

内、消費税等＝税込み取引金額×消費税率(%)÷(100+消費税率(%))×控除割合(%)

※ 計算は小数点第一位を四捨五入します。小数点以下の数値はセットしないでください。

課税区分が「52, 53, 62, 63, 72, 73」でかつ、内、消費税等が「0」の場合、「(17) 税額入力区分」に「1」をセットすると、内、消費税等に自動計算した結果を自動でセットします。

消費税法施行規則第22条の適用を受ける場合には、実際の取引によって生じた内、消費税等をデータとして作成し、その際の「(17) 税額入力区分」は「0」とします。「55, 65, 75」に該当する取引の場合は、必ず実際に生じた内、消費税等をデータとして作成しなければなりません。消費税の発生しない取引、または税抜き経理以外の場合は0をセットしてください。

(17) 税額入力区分

型 : 数値

有効値 : 0, 1

1をセットすると会計伝票上の消費税欄に自動計算を表すA(オート)が表示されます。内、消費税等をシステムで自動計算した場合は1を、自動計算でない場合は0をセットしてください。消費税の発生しない取引、または税抜き経理以外の場合は0をセットしてください。

但し、1をセットしていても、FXクラウドシリーズが自動計算した場合の内、消費税等と不一致の場合は、「A」を消去します。

課税区分が「52, 53, 62, 63, 72, 73」でかつ、内、消費税等が「0」の場合、「税額入力区分」に「1」をセットすると、内、消費税等に自動計算した結果を自動でセットします。

※課税区分「52, 53, 62, 63, 72, 73」を除き、当項目に1をセットしても、内、消費税等は自動計算されませんのでご注意ください。

(18) 消費税率

型 : 数値

有効値 : 0~99999

税外取引の場合は0をセットしてください。

例：8%の場合は800、10%の場合は1000をセットしてください。

(19) 取引先コード

型 : 数値

有効値 : 0~999999

FXクラウドシリーズに登録されている取引先コードをセットしてください。FXクラウドシリーズに登録されていない取引先の場合は、0をセットしてください。

取引先別管理している科目の仕訳の場合、0がセットされている場合やFXクラウドシリーズに登録されていない取引先コードがセットされていた場合にはエラーとなります。

(20) 取引先名

型 : 文字

桁 数 : 32 バイト以内 (全半角文字混在可)

F Xクラウドシリーズに登録されている取引先コードがセットされている場合、この取引先名は読み込み時にF Xクラウドシリーズに登録されている取引先名に置き換えます。

「(19) 取引先コード」に0がセットされた場合は、当項目が登録されます。

(21) 実際の仕入れ日入力パターン

型 : 数値

有効値 : 0~4

仕入れ年月日のパターンをセットしてください。仕入れ以外の取引の場合は0をセットしてください。

[実際の仕入れ年月日のパターン]

0=省略

1=YYYY年MM月DD日

2=YYYY年MM月DD日~YYYY年MM月DD日

3=YYYY年MM月分

4=YYYY年MM月分~YYYY年MM月分

9=未入力

参考：実際の仕入れ年月日

課税区分が「5、51、55、6、61、65、7、71、75、8、57、58、67、68、77、78」に該当する取引（課税仕入れに関わる取引）の場合、消費税の仕入れ税額控除を受けるために、その課税仕入れが実際に行われた日を記帳する必要があります。そのための項目として実際の仕入れ日の項目を用意しています。実際の仕入れ年月日の表示方式は以下の通りです。

入力パターン	開始日	終了日	F Xクラウドシリーズ上の表現
0	0	0	表示なし (入力省略)
1	YYYYMMDD	0	Z9年Z9月Z9日
2	YYYYMMDD	YYYYMMDD	Z9年Z9月Z9日~Z9年Z9月Z9日
3	YYYYMM00	0	Z9年Z9月分
4	YYYYMM00	YYYYMM00	Z9年Z9月~Z9年Z9月分
9	0	0	表示なし (未入力)

※実際の仕入れ年月日は、取引日の属する同一会計期間内の日付でなければなりません。

(22) 実際の仕入れ開始年月日

型 : 数値

実際の仕入れ年月日のパターンを1~4とした場合に、仕入れ開始年月日または仕入れ開始年月を西暦でセットしてください。開始年月の場合は、日付部分には「00」をセットしてください。

仕入れ日パターンが0の場合は0をセットしてください。

(23) 実際の仕入れ終了年月日

型 : 数値

説明：仕入れ年月日のパターンを2, 4とした場合に、仕入れ終了年月日または仕入れ終了年月を西暦でセットしてください。終了年月の場合は、日付部分には「00」をセットして

ください。仕入れ日パターンが 0, 1, 3 の場合は 0 をセットしてください。

例：①仕入れ日を表示しない、また仕入れ取引以外の場合

実際の仕入れ日パターン=0

実際の仕入れ開始年月日=0

実際の仕入れ終了年月日=0

②仕入れ日を「2020年6月10日」とする場合

実際の仕入れ日パターン=1

実際の仕入れ開始年月日=20200610

実際の仕入れ終了年月日=0

③仕入れ日を「2020年6月10日～2020年6月25日」とする場合

実際の仕入れ日パターン=2

実際の仕入れ開始年月日=20200610

実際の仕入れ終了年月日=20200625

④仕入れ日を「2020年4月分」とする場合

実際の仕入れ日パターン=3

実際の仕入れ開始年月日=20200400

実際の仕入れ終了年月日=0

⑤仕入れ日を「2020年6月～2020年8月分」とする場合

実際の仕入れ日パターン=4

実際の仕入れ開始年月日=20200600

実際の仕入れ終了年月日=20200800

(24) 元帳摘要

型 : 文字

桁数 : 80 バイト以内 (全半角文字混在可)

仕訳の元帳摘要をセットしてください。省略する場合は「未入力」をセットしてください。

(25) FILLER

予備領域です。未入力としてください。

(26) 収支区分

型 : 数値

有効値 : 0～7

収支区分をセットしてください。資金外取引または資金管理をしない場合は 0 をセットしてください。

(27) 内訳区分

型 : 数値

有効値 : 0～99

内訳区分をセットしてください。資金外取引または資金管理をしない場合は 0 をセットしてください。

(28) 部門コード

型 : 数値

有効値 : 0～998

当該仕訳に関わる部門数が1の場合、該当部門コードをセットしてください。

部門数が1以外の場合はどんな部門コードがセットされていても、この項目は無視されます。
通常は未入力としてください。

例：部門コード「000」をセットする場合は「0」

部門コード「005」をセットする場合は「5」

部門コード「021」をセットする場合は「21」

(29) 部門数

型 : 数値

有効値 : 0~60

当該仕訳に付随する部門数をセットしてください。

損益科目以外の取引の場合は0または未入力をセットしてください。

(30) 部門金額入力区分

型 : 数値

有効値 : 0または1

1の場合、部門明細の税込み金額が有効となります。

1以外の場合は、ファイル上、税込み金額がセットされていても読み込みません。

(31) FILLER

型 : 数値

有効値 : 0 or 未入力

予備領域です。0または未入力としてください。

(32) 自動仕訳番号

型 : 数値

有効値 : 0~999999

当該仕訳と他社システムでの取引とを対応させるための番号です。対応付けが不要な場合は0をセットしてください。

(33) 支払予定日

型 : 数値

支払管理機能を利用する場合で、かつ支払管理科目として設定した科目（買掛金・未払金）を貸方に計上する仕訳の場合、支払予定日をセットしてください。省略する場合や支払管理科目として設定した科目以外の仕訳の場合は、0をセットしてください。

(34) 回収予定日

型 : 数値

入金管理機能を作成する場合で、かつ入金管理科目として設定した科目（売掛金・未収金）を借方に計上する仕訳の場合、回収予定日をセットしてください。省略する場合や入金管理科目として設定した科目以外の仕訳の場合は、0をセットしてください。

(35) FILLER

型 : 数値

有効値 : 0 or 未入力

予備領域です。0または未入力としてください。

(36) FILLER

型 : 数値

有効値 : 0 or 未入力

予備領域です。0 または未入力としてください。

(37) FILLER

型 : 数値

有効値 : 0 or 未入力

予備領域です。0 または未入力としてください。

(38) FILLER

型 : 数値

有効値 : 0 or 未入力

予備領域です。0 または未入力としてください。

(39) FILLER

型 : 数値

有効値 : 0 or 未入力

予備領域です。0 または未入力としてください。

(40) FILLER

型 : 数値

有効値 : 0 or 未入力

予備領域です。0 または未入力としてください。

(41) FILLER

型 : 数値

有効値 : 0 or 未入力

予備領域です。0 または未入力としてください。

(42) FILLER

型 : 数値

有効値 : 0 or 未入力

予備領域です。0 または未入力としてください。

(43) FILLER

型 : 数値

有効値 : 0 or 未入力

予備領域です。0 または未入力としてください。

(44) FILLER

型 : 数値

有効値 : 0 or 未入力

予備領域です。0 または未入力としてください。

(45) FILLER

型 : 数値

有効値 : 0 or 未入力

予備領域です。0 または未入力としてください。

(46) 軽減対象取引区分

型 : 数値

有効値 : 0 もしくは 1

軽減税率の場合は「1」、軽減税率以外の場合は「0」をセットします。

未入力の場合は、軽減税率とみなして読みます。

(47) 適格請求書発行事業者の登録番号

型 : 文字

有効値 : T+数値 13桁

- ①年月日、実際の仕入れ年月日が令和5年10月1日以降でかつ課税区分が[5][6][7]の場合にセットします。省略する場合は未入力としてください。
- ②次の条件をすべて満たす場合に仕訳に更新されます、
 - 1)消費税情報の「課税仕入れの仕訳チェック(インボイス制度)」が「実施する」かつ、次のいずれかに該当する場合
 - a.消費税情報の「基準期間課税売上高1億円以下等」が「該当する」でかつ、課税仕入高合計が1万円以上又は0円以下、
 - b.消費税情報の「基準期間課税売上高1億円以下等」が「該当しない」
 - 2)仕訳の年月日が令和5年10月1日以降
 - 3)実際の仕入れ年月日(期間指定時は終了日)がセットされていてかつ、令和5年10月1日以降(年月指定の場合は令和5年10月分以降)
 - 4)課税区分[5][6][7]
- ③当項目が未入力でFXクラウドシリーズに登録されている取引先コードがセットされている場合、読み込み時にFXクラウドシリーズに登録されている適格請求書発行事業者の登録番号に置き換えます。
- ④取引先に適格請求書発行事業者の登録番号が未登録の場合は当該事業者登録番号を取引先に自動登録します。

2. 「部門明細」

(1) 関与先コード

型 : 数値

有効値 : 0~999

F Xクラウドシリーズで登録されている関与先コードをセットしてください。

MX 2クラウドの場合は、経理区分が1つの場合は関与先コード、複数ある場合は経理区分コードをセットしてください。

F X 2 社会福祉法人会計クラウドの場合は、拠点区分コードをセットしてください。

F X 2 公益法人会計クラウドの場合は、会計区分コードをセットしてください。

F X 2 学校法人会計クラウドの場合は、会計単位コードをセットしてください。

F X 2 N P O 法人会計クラウドの場合は、会計区分コードをセットしてください。

例：関与先コードが「005」の場合「5」

関与先コードが「032」の場合「32」

(2) データ作成システム区分

型 : 数値

有効値 : 999

固定で999をセットしてください。

(3) レコード番号

型 : 数値

有効値 : 1~999999999

仕訳明細と関連付ける番号です。対応する仕訳明細と同一のレコード番号をセットしてください。

(4) 部門明細部レコード番号

型 : 数値

有効値 : 0 or 未入力

F Xクラウドシリーズでは当項目は参照していません。

(5) 部門コード

型 : 数値

有効値 : 0~998

部門コードをセットしてください。

例：部門コード「000」をセットする場合は「0」

部門コード「005」をセットする場合は「5」

部門コード「021」をセットする場合は「21」

(6) 部門税込み金額

型 : 数値

有効値 : -99999999999~99999999999

「部門金額入力区分」が「1」の場合のみ有効となります。この際、「税込み金額-内訳金額」の値を部門ごとの金額として読みます。

なお、「部門金額入力区分」が「1」以外の場合は無視されます。

仕訳の課税区分が[52][53][62][63][72][73]の場合は必ずセットしてください。

(7) 内訳金額

型 : 数値

有効値 : -99999999999~99999999999

各部門の内訳金額をセットしてください。消費税が発生する取引の場合は税抜きの金額をセットしてください。

V. F X 2 等から移行した場合の注意点

1. エラー処理について

F Xクラウドシリーズでは、入力された値の型（数値または文字列）を厳密にチェックしており、F X 2 等で読み込めるファイルが、F Xクラウドシリーズでは読み込めない場合があります。次の内容を確認してください。なお、「列」とは、Excel で開いたときの列です。

(1) 「仕訳明細」

No	列	項目	内容
1	E	伝票番号	有効値は、0～99999 です。有効値でない場合は、次のエラーとなります。 「行番号 X 伝票番号：XXXXXX は範囲外の値です」
2	F	証憑番号	有効値は、半角英数字（または半角数字）で 6 文字以内です。有効値でない場合は、次のエラーとなります。 「行番号 X 証憑番号：XXXXXXX は範囲外の値です」
3	M	小切手番号	有効値は、0～99999999 です。有効値でない場合は次のエラーとなります。 「行番号 X 小切手番号：XXXXXXXXX は範囲外の値です」
4	0	取引金額	カンマ編集は行わないでください。カンマ編集を行った場合は次のエラーとなります。 「正しいファイル形式ではありません」 金額が 0 円の場合、必ず「0」をセットしてください。空欄の場合は次のエラーとなります。 「正しいファイル形式ではありません」
5	P	内、消費税等	「取引金額」と同じ内容を確認してください。
6	X	元帳摘要	F Xクラウドシリーズでは、入力できる文字数を全角 20 文字（半角 40 文字）から全角 40 文字（半角 80 文字）に拡張しました。ただし、全角 40 文字（半角 80 文字）を超える場合は次のエラーとなります。 「元帳摘要は 全角 40 文字（半角 80 文字）以内で入力してください」
7	AF	自動仕訳番号	有効値は、0～999999 です。有効値でない場合は次のエラーとなります。 「行番号 X 自動仕訳番号：XXXXXXX は範囲外の値です」

(2) 「部門明細」

No	列	項目	内容
1	F	部門税込み金額	「取引金額」と同じ内容を確認してください。
2	G	内訳金額	「取引金額」と同じ内容を確認してください。

2. みなし処理について

F X 2 等で行っている次のみなし処理は行いません。

- 「取引先コード」列及び「取引先名」列の両方の値を省略され、かつ「事業者登録番号」列に値がセットされ、さらに当該事業者登録番号をセットされた取引先が1件のみ存在する場合に、当該取引先コードを「取引先コード」列に、該当取引先の名称を「取引先名」列にセットするみなし処理
- 「取引先コード」列及び「取引先名」列の両方の値を省略され、かつ「事業者登録番号」列に値がセットされ、さらに当該事業者登録番号をセットされた取引先が1件も存在しない場合に、国税庁のサイト上の「屋号」を「取引先名」列にセットするみなし処理

VI. エラーメッセージ

表示されるエラーメッセージと条件は以下のとおりです。

メッセージ	条件
関与先コードが誤っています	1. 「関与先コード」欄に異なる関与先コードが入力されている 2. MX 2クラウドで複数の経理区分がある場合、異なる経理区分コードが入力されている
指定されたファイルは当メニューでは読込めません	「データ作成システム区分」欄に 999 以外のコードが入力されている
レコード番号が一意になっていません	「レコード番号」欄に入力されている番号が重複している
正しいファイル形式ではありません	必須の項目（9 ページ参照）が省略されている
取引年月日の値が誤っています	「取引年月日」欄に西暦年月日(8 桁)でない形式で取引年月日が入力されている
将来の日付は入力できません	「取引年月日」欄に実際の日付を超えた日付が入力されている
指定できる日は、YYYY 年 MM 月 DD 日までです	「取引年月日」欄に入力可能月（当月から 4 か月間）の範囲外の日付が入力されている （例）4 月まで月次更新済みの場合、8 月までの取引年月日の仕訳が読込み可
この月の入力はできません。直近の月次更新完了月以降の入力が可能です	「取引年月日」欄に当月の前々月以前の日付が入力されている （例）4 月まで月次更新済みの場合、2 月の仕訳は読込み不可
直近の月次更新完了月の仕訳入力は禁止されています	「取引年月日」欄にシステム情報で「直近の月次更新完了月の仕訳入力」が禁止すると設定されているにもかかわらず、「直近の月次更新完了月」の日付が入力されている
会計事務所が監査中のため、この月の仕訳の訂正加除はできません。詳しくは会計事務所にお問合せください	「取引年月日」欄に月次巡回監査メニューの「関与先による監査対象月の入力を禁止」にチェックが付けられているにもかかわらず、監査対象月の日付が入力されている
伝票番号：XXXXXXX は範囲外の値です	「伝票番号」欄に 0～99999 以外の値が入力されている
証憑番号：XXXXXXX は範囲外の値です	「証憑番号」欄に 6 バイトを超えた値が入力されている
証憑番号には半角数字の入力のみ可能です	「証憑番号」欄にシステム情報で半角数字のみと設定しているにもかかわらず、文字列が入力されている
課税区分、借方科目及び貸方科目の組	以下のいずれかの条件に合致する

合せが正しくありません。課税区分又は勘定科目を見直してください	<ul style="list-style-type: none"> ・「課税区分」欄に課税区分が入力されていない ・「借方(貸方)科目コード」欄に入力されている勘定科目と「課税区分」欄に入力されている課税区分の組合せが正しくない ・課税区分[52][53][62][63][72][73]で「借方(貸方)科目コード」欄に仮払消費税等、仮受消費税等がセットされている
事業区分が入力されていないか、誤った事業区分が入力されています	「事業区分」欄に事業区分が入力されていない。または、存在しない事業区分が入力されている
存在しない借方(貸方)科目コードです	「借方(貸方)科目コード」欄に存在しない勘定科目コードが入力されている。または、製造原価科目を「利用しない」と設定しているにもかかわらず、製造原価科目の科目コードが入力されている
補助コードが入力されていないか、誤った補助コードが入力されています	「借方(貸方)補助コード」欄に補助コードが入力されていない。または、登録されていない補助コードが入力されている
税込み金額：XXXXXXXXXXXX は範囲外の値です	「取引金額」欄に 11 桁を超えた値が入力されている
税率が入力されていないか、誤った税率が入力されています	<p>「税率」欄に以下のいずれかの条件に合致する税率が入力されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・消費税情報の税率テーブルに登録されていない税率が入力されている ・税率が必要な課税区分(*)で税率に 0 %が入力されている <p>(*) '1', '11', '12', '5', '51', '55', '6', '61', '65', '7', '71', '75', '57', '58', '67', '68', '77', '78'</p> <ul style="list-style-type: none"> ・税率と軽減対象取引区分の組み合わせで存在しない税率が入力されている。 <p>(例) 税率「500」、軽減対象取引区分「1」</p>
取引先名は全角 16 文字(半角 32 文字)以内で入力してください	「取引先名」欄に全角 16 文字(半角 32 文字)を超えた名称が入力されている
取引先が入力されていないか、誤った取引先が入力されています	入力された勘定科目が取引先別管理科目とされているにもかかわらず、「取引先コード」欄に、取引先コードが 0、または登録されていないコードが入力されている
実際の仕入れ年月日を入力してください	「実際の仕入れ年月日」欄に実際の仕入れ年月日が入力されていない
実際の仕入れ年月日 1 (実際の仕入れ)	「実際の仕入れ年月日」欄に「実際の仕入れ日入力パ

年月日 2) の値が誤っています	ターン」欄で指定した入力パターンと異なる形式で入力されている
元帳摘要は全角 40 文字(半角 80 文字)以内で入力してください	「元帳摘要」欄に全角 40 文字(半角 80 文字)を超えた摘要が入力されている
収支区分が入力されていないか、誤った収支区分が入力されています	「収支区分」欄に収支区分に 1～7 以外の値が入力されている、または入力されていない
内訳区分が入力されていないか、誤った内訳区分が入力されています	「内訳区分」欄に内訳区分が入力されていない、または登録されていない内訳区分が入力されている
部門コードが入力されていないか、誤った部門コードが入力されています。	「部門コード」欄に部門が入力されていない、または登録されていない部門コードが入力されている
部門明細数に誤りがあります	s1p ファイルの「部門数」欄と c1s ファイルの部門数が一致していない
貸借の合計額が一致していません	以下のいずれかの条件に合致 <ul style="list-style-type: none"> ・ s1p の取引金額と c1s の取引金額の合計額が一致していない ・ s1p の内、消費税等と c1s の内、消費税等（税込み金額－税抜き金額）の合計額が一致していない
取引先コード XXXXXX の事業者登録番号が取引先マスターと相違しています	F Xクラウドの取引先に登録されている事業者登録番号とファイルの事業者登録番号が一致していない
取引先コード XXXXXX の事業者登録番号が同一取引先で相違しています	同一取引先にもかかわらず仕訳ごとにセットされている事業者登録番号が一致していない
課税区分 [52] [53] [62] [63] [72] [73] の仕訳の場合、部門明細ファイルに税込み金額をセットしてください	課税区分 [52] [53] [62] [63] [72] [73] の仕訳にもかかわらず、c1s の部門税込み金額がセットされていない
課税区分 [52] [53] [62] [63] [72] [73] は免税事業者等からの課税仕入れを処理する課税区分のため、2023/9/30 以前は入力できません。年月日、実際の仕入れ年月日又は課税区分を確認してください	課税区分 [52] [53] [62] [63] [72] [73] の仕訳にもかかわらず、年月日、実際の仕入れ年月日に 2023/09/30 以前の日付がセットされている
収支科目が入力されていません	勘定科目コードが入力されていないか、誤った勘定科目コードが入力されている

VII. 警告メッセージ

データに誤りがある場合でも、読込時に F Xクラウドシリーズで自動的にみなし処理を行う場合があります。みなし処理を行う場合のメッセージと条件は以下のとおりです。

メッセージ	条件
課税区分が不要な取引です。課税区分	「課税区分」欄に消費税情報で消費税申告書を自動

を消去して読みます	作成しないとしているにもかかわらず、課税区分が入力されている
事業区分が不要な取引です。事業区分を消去して読みます	「事業区分」欄に'1','11'以外の課税区分が入力されているにもかかわらず、事業区分が入力されている
消費税が発生しない取引であるにもかかわらず、消費税額が入力されています。消費税額を消去して読みます	「内、消費税等」欄に課税取引でないにもかかわらず、消費税額が入力されている
税率が不要な取引です。税率を消去して読みます。	課税取引の課税区分(*)でないにもかかわらず、「税率」欄に税率が入力されている (*)'2','21','25','26','3','31','4','8','9','0'
収支区分が不要な取引です。収支区分を消去して読みます。	「収支区分」欄に収支区分が不要な取引にもかかわらず、収支区分が入力されている
内訳区分が不要な取引です。内訳区分を消去して読みます。	「内訳区分」欄に内訳区分が不要な取引にもかかわらず、内訳区分が入力されている

Ⅷ. 運用開始までの標準的なステップ

ここでは、販売管理システムとF Xクラウドシリーズが当機能を利用して「仕訳データ」連携を行うことを例に、運用開始するまでの標準的なステップをご紹介します。

1. 仕訳の決定

売上、仕入、入金、支払等について具体的な仕訳の内容（貸借科目、課税区分、取引先名、元帳摘要等）を検討・決定します。読み込む仕訳で使用する科目が口座別管理や取引先別管理を行っている場合には、補助コード、取引先コードについても検討します。

2. 仕訳として集計する単位の決定

明細単位、日単位、週単位、月単位など販売管理システムの各取引を、どの単位で財務F Xクラウドシリーズの仕訳として集計するかを検討・決定します。

3. 読み込んだ仕訳を訂正・削除する場合の処理の検討

販売管理システム上で、F Xクラウドシリーズに読み込み済みの取引につき、訂正・削除が必要となった場合の処理を検討します。この場合の訂正および削除のための「仕訳データ」の作成およびF Xクラウドシリーズへの読込につき、検討・決定します。

4. 「仕訳データ」の作成（プログラム開発等）

販売管理システムのデータを基に、F Xクラウドシリーズが定めるレイアウトにしたがって「仕訳データ」を作成します。販売管理システムの開発元もしくは販売元を通じ、専用のプログラムを開発するか、販売管理システムから切り出したデータを Excel で変換する等の処理について、検討・決定します。

5. 「仕訳データ」の読み込みテスト

販売管理システムの全パターンの取引について「仕訳データ」を作成し、正しくF Xクラウドシリーズに読み込めるか否かのテストを行います。F Xクラウドシリーズでの読み込みチェックでエラーもしくは警告が表示される場合には、その原因を分析し、「仕訳データ」作成のプログラムを開発した場合には、原因分析、修正を行います。

6. 運用におけるルール決定、運用開始

テストが完了したら、販売管理システムから「仕訳データ」を作成するタイミング・処理方法、F Xクラウドシリーズに読み込むタイミング・処理方法についてルールを決定し、当機能の運用を開始します。

IX. 「仕訳データ」読込 Q & A

1. ファイル形式

Q 1 : データ連携する際のファイル形式はどうなりますか。

A 1 : タブ区切りのテキストファイルになります。

なお、E x c e l で保存する場合は「テキスト形式(タブ区切り)(*.txt)」を選択してください。

Q 2 : 作成したファイルをE x c e l で確認する方法を教えてください。

A 2 : ①作成した「仕訳データ」のファイル「～.slp」の拡張子をエクスプローラ等で「～.txt」に変更します。なお、ファイルの拡張子を表示しない設定としている場合、ファイルの拡張子を表示する設定とした上で、変更を行ってください。

②E x c e l を起動します。

③上記①のファイルをE x c e l にドラッグ&ドロップすると、ファイルの中身をE x c e l で確認することができます。

④上記①で変更したファイルの拡張子を「～.slp」に戻します。

※部門名ファイル(～.cls)についても同様の手順で行います。

Q 3 : C S V形式の読込はできませんか。

A 3 : タブ区切りのテキストファイル形式のみになります。仕訳データがC S Vの場合はE x c e l でタブ区切りのテキストファイルに変換を行ってください。

Q 4 : 部門明細データファイル(拡張子cls)は必ず必要ですか？

A 4 : 一つの仕訳に対して、部門明細が複数ある場合はclsファイルに内訳をセットする必要があります。ただし管理が複雑になりますので、通常は仕訳を明細単位に分解し、slpファイルのみで運用できる仕組みを推奨します。

Q 5 : サンプルファイルはありますか。

A 5 : あります。ただし、サンプルファイルはF Xクラウドシリーズのサンプルデータをもとに作成したものです。貴社のF Xクラウドシリーズでの勘定科目名や取引先情報は、サンプルデータとは異なりますので、サンプルデータはそのままでは読込ができません。あくまでレイアウト確認用としてご活用下さい。

Q 6 : ファイル名に指定はありますか。

A 6 : ファイル名に指定はありません。ただし、slpファイルとclsファイルを作成する場合は、同一ファイル名としてください。

2. 「仕訳データ」の読み込み

Q 1 : 「正しいファイル形式ではありません」のメッセージが表示されました。原因は？

A 1 : 当該メッセージは、基本的なファイルの形式を満たしていない場合に表示されます。原

因としては、以下のことが考えられます。

- ① 項目がタブによって区切られていない。
- ② 仕訳データの明細の区切りに改行コードがない。
- ③ 各項目がデータレイアウト通りに作成されていない。

サンプルデータもしくは「Ⅲ インポートする「仕訳データ」ファイル」「Ⅳ インポートする「仕訳データ」各項目の詳細」を参照し、作成した仕訳データファイルをご確認ください。

Q 2 : ファイルは F Xクラウドシリーズがインストールされている P C に保管する必要がありますか。

A 2 : ありません。読み込み処理を行う P C から開けるファイルであれば、サーバや他の P C に保管されているファイルでも問題ありません。ただし読み込み終了後にファイルの拡張子の変更を行うので、書き込み権限のあるフォルダに保存されている必要があります。

3. 「仕訳データ」の各項目

Q 1 : 仕訳データの補助コードを「01」と設定し、読み込みを行いましたが、システム上「1」と認識されて「補助コードエラー」となってしまいます。

A 1 : 一度作成したファイルを E x c e l で編集して上書き保存した場合、「01」が「1」と変換されてしまいます。E x c e l 上で「01」を文字列として認識させてから再度保存してください。

Q 2 : 「税額入力区分」に「1」をセットすると F Xクラウドシリーズで内、消費税等の自動計算を行うのですか？

A 2 : 課税区分が[52, 53, 62, 63, 72, 73]で、かつ内、消費税等に「0」がセットされている場合、「税額入力区分」に「1」をセットすると内、消費税等を自動計算します。
これ以外の場合は「1」をセットしても内、消費税等を F Xクラウドシリーズ側で自動計算するわけではありません。他社システムで内、消費税等を自動計算し、仕訳データにセットする場合は「1」をセットしてください。F Xクラウドシリーズの画面上、自動計算されたものとして表示します。

Q 3 : 販売管理システムでは消費税額込の売上金額しか持っていません。課税区分は何をセットすればよいですか。

A 3 : 消費税の取扱いに関する問題なので、会計事務所とご相談の上、取引パターン毎に運用方法を検討して下さい。

Q 4 : 伝票番号をセットしても F Xクラウドシリーズに更新されません。なぜですか？

A 4 : 以下の通り、F Xクラウドシリーズでのシステム情報「伝票番号の入力」の設定によります。

- ① 「システムで自動付番する（変更不可）」

更新された順に伝票番号がシステム側で付番されます。データの内容は無視されます。

②「ユーザごとに自動付番する（変更不可）」

更新された順に伝票番号がシステム側で付番されます。データの内容は無視されます。

③「ユーザごとに自動付番する（変更可）」

データ上の伝票番号をそのままセットします。仕訳データファイルに情報がない場合は何もセットされません。

④「自動付番しない」

データ上の伝票番号をそのままセットします。

Q 5：自動仕訳番号について、前 0 付加（例：000027）のようにデータを作成することは可能か？

A 5：読込に関しては問題ありません。ただし「27」、「000027」という数値について、読込を行いますと画面上はいずれも「000027」という表示になります。

4. テスト

Q 1：データを作成したので読込のテストを実施したいのですが、どのように行えばよいですか。

A 1：本稼働している F Xクラウドシリーズで読込を行い、正常に読込が完了しても一括読込ボタンを押さない限りは仕訳データとしてシステムに反映されません。従って、利用中の F Xクラウドシリーズでテストを実施することが可能です。

5. 運用・操作

Q 1：訂正伝票が発生したら、どのように対処すればよいですか。

A 1：訂正伝票が発生した場合は、他社システム側で訂正処理を行った後、訂正データを作成し、仕訳データを取り込むことを前提としています。システム間の整合性を確保するため、F Xクラウドシリーズ側で取り込んだ仕訳を直接訂正することは望ましくありません。証憑書類の問題も出てきますので、詳しくは会計事務所とご相談の上、運用方法を決めて下さい。

Q 2：読込んだデータと手入力したデータと何か違いがありますか。

A 2：仕訳確認時に画面上に「他社システム仕訳」と表示されます。

Q 3：読込んだデータは F Xクラウドシリーズ上で確認することができますか？ また、どのように確認するのですか。

A 3：通常の手入力した仕訳と同じように確認することができます。また、条件検索機能を利用することで、他社システムから取り込んだ仕訳のみを抽出することも可能です。

Q 4：複合仕訳の連携を行いたいのですが

A 4：複合仕訳をそのまま連携させることはできません。諸口勘定を通して単一仕訳に分解してから連携を行ってください。

資料1：仕訳マトリックスによる「課税区分」別処理内容一覧表

借方科目の 消費税属性		A		B		C		D		消費税属性に対応する 勘定科目コード (財務三表システム)
		課税取引の発生 する勘定科目		課税取引の発生 しない勘定科目		仮払消費税等 (1164)		仮受消費税等 (2164)		
貸方科目の 消費税属性		課税 区分	経理 方式	課税 区分	経理 方式	課税 区分	経理 方式	課税 区分	経理 方式	
A	課税取引の 発生する 勘定科目			1	③					<ul style="list-style-type: none"> ・流動資産 1125, 1171 ・棚卸資産 1131～1136 ・固定資産 1211～1224, 1231～1236, 1251～1313 (除、1222, 1234, 1265) ・純資産の部 3611 ・営業収益 4111～4115 ・売上原価 5111～5311 ・製造原価 5411～5472 ・販管費 6111～6231 ・営業外損益 7111～7519 ・特別損益 8111～8214
				11	③					
				12	③					
				2	⑤					
				21	⑤					
				25	⑤					
				26	⑤					
				3	⑤					
				31	⑤					
				4	⑤					
				5, 6, 7	①					
		51～75	①							
		57～78	⑤							
		8	⑤							
B	課税取引の 発生しない 勘定科目	1	④	1	*	1	*	1	⑤	<ul style="list-style-type: none"> ・流動資産 1111～1126, 1151～1159 (除、1125, 1164) ・固定資産 1222, 1225, 1234, 1265 ・負債の部 2111～2215 (除、2164) ・純資産の部 3111～3511 (除、3611) ・PL科目 8311～9611 ・繰越利益剰余金変動額 9211～9611 ・諸口勘定 9991, 9992
		11	④	11	*	11	*	11	⑤	
		12	④	12	*	12	*	12	⑤	
		2	⑤	2	*	2	*	2	*	
		21	⑤	21	*	21	*	21	*	
		25	⑤	25	*	25	*	25	*	
		26	⑤	26	*	26	*	26	*	
		3	⑤	3	*	3	*	3	*	
		31	⑤	31	*	31	*	31	*	
		4	⑤	4	⑤	4	*	4	*	
		5, 6, 7	②	5, 6, 7	*	5, 6, 7	⑤	5, 6, 7	*	
51～75	②	51～75	*	51～75	⑤	51～75	*			
57～78	⑤	57～78	*	57～78	*	57～78	*			
8	⑤	8	⑤	8	*	8	*			
C	仮払消費税等 (1164)			1	*					<ul style="list-style-type: none"> ・仮払消費税等 1164
				11	*					
				12	*					
				2	*					
				21	*					
				25	*					
				26	*					
				3	*					
				31	*					
				4	*					
				5, 6, 7	⑤					
		51～75	⑤							
		57～78	*							
		8	*							
D	仮受消費税等 (2164)			1	⑤					<ul style="list-style-type: none"> ・仮受消費税等 2164
				11	⑤					
				12	⑤					
				2	*					
				21	*					
				25	*					
				26	*					
				3	*					
				31	*					
				4	*					
				5, 6, 7	*					
		51～75	*							
		57～78	*							

		8	*		
--	--	---	---	--	--

- (注1) 上記のマトリックスのうち、「経理方式」が①～⑤となっている「課税区分」が入力の対象となります。
 (「税込み経理」の場合も同様となります。)
- (注2) 「税抜き経理」の場合は、の「課税区分」のみ自動税抜き経理を行います。
- (注3) 「課税区分」が[9]と[0]の場合は、すべての仕訳が入力可能となります。